

手術室棟オープン

平成29年7月末にきぼう棟とみらい棟の間に手術室棟を増築しました。本棟は4階建てとなっており、4階の機械室を除く1～3階までのフロアを活用します。1階には心身医療科外来がきぼう棟から移転し、2階には術前診察室、外来回復室のほか手術部長室、麻酔科控室などを新設しました。そして3階にはハイブリッド手術室、MRI手術室（撮影室含）、バイオクリーン（BCR）手術室の3つのオペ室に加え、検体処理室と手術器材室を設け、手術室の強化を図りました。

本棟の特長の1つには、最新鋭の設備とシステムを備えたオペ室にあります。それぞれオペ室の特長を紹介します。



【ハイブリッド手術室の特長】

血管撮影装置と手術台を統合させたもので、高画質の透視、3D撮影が可能となり、カテーテルを用いる内科的治療と外科手術を同時に行うことが可能。心房中隔欠損症に対する経カテーテルの閉鎖術、胸腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、経カテーテル大動脈弁置換術など、治療領域は多岐にわたります。今回導入した血管撮影装置は目的部位を同時に多方向から観察できる「バイプレーン型」で、正確な治療を行うことができ、東北地方では初の導入となります。



【MRI手術室の特長】

3テスラの超高磁場MRIと高機能ナビゲーションシステムを備え、高度の情報統合を可能とした世界でも有数のインテリジェント手術室。超高磁場システムを備えた手術室は東北地方で初めてです。術中に脳内の状況を高精画像で評価することが可能であり、さらに術中に取得した最新画像に基づいて、信頼性の高いナビゲーションにより、通常の設定の手術室に比べて、手術の正確性と安全性が飛躍的に高まると期待されます。



【BCR手術室の特長】

BCR手術室とは、空気中の粉塵や細菌を高性能のフィルターで少なくした空気環境を整えた手術室で、人工関節の手術や脊椎の金属インプラントを多く入れる手術、その他手術部位の感染症を避けたい手術などに活用します。本院では平成28年4月に整形外科に人工関節センターを設立したことから、本室の積極的な活用が期待が持てます。



一方、1階には心身医療科を移転しましたが、これまで6室だった診察室を9室に増設しました。また、震災以降増えている子どものこころ疾患に対応すべく、児童思春期診察室を3室新設し、子どもの健康を見守り続けていくこととなります。

